

## 肺癌に対する消極的縮小手術 —再発・生命予後に関わる因子の解析—

あら き くに お 目 つぎ ひろ ゆき  
荒 木 邦 夫 目 次 裕 之

キーワード：肺癌，消極的縮小手術，慢性呼吸器疾患合併

### 要 旨

【はじめに】肺癌に対する消極的縮小手術の予後を予測する臨床病理因子が見いだせるかどうか，後方視的に解析した。【対象と方法】2014–19年の期間でI期非小細胞肺癌に対する消極的縮小手術（肺区域切除,肺部分切除）を実施した41例を対象とした。無再発/再発群と生存/死亡群に分け，各群での周術期臨床病理因子を比較解析した。【結果】再発6例（再発率14.6%），死亡9例（死亡率22.0%）。無再発/再発群において再発に寄与する因子は，慢性呼吸器疾患の併存，画像腫瘍浸潤径，病理腫瘍径・浸潤径であった。一方，生存/死亡群において生命予後に寄与する因子は，慢性呼吸器疾患併存のみであった。なお術式は再発・生命予後いずれにも寄与しなかった。【まとめ】慢性呼吸器疾患を有する肺癌症例は消極的縮小手術を選択しても術式に関わらず予後不良であることから，手術治療の選択は慎重な判断を要する。

### はじめに

肺癌治療の多様化・個別化に伴い，高齢あるいは基礎疾患を合併した肺癌患者に対する消極的縮小手術の役割があらためて問われている。この一端を明らかにする目的で，再発ならびに生命予後不良を予測する臨床病理因子が見いだせるかどうか，症例を集積し後方視的に解析した。

### 対象と解析事項

2014年1月～2019年12月の期間，高齢や基礎疾患の併存，または低肺機能等の理由で肺区域切除あるいは肺部分切除とする消極的縮小手術を選択し実施したStage I非小細胞肺癌51症例のうち，1年以上の経過を追跡できた41症例（1年以内の死亡例を含む）を対象とした。

これら対象例の術後再発，再発後治療の詳細と予後および死因を明らかにした上で，無再発/再発群と生存/死亡群に群別した。

続いて各臨床病理因子を術前因子，手術・病理

Kunio ARAKI et al.

国立病院機構松江医療センター呼吸器外科

連絡先：〒690-8556 松江市上乃木5-8-31

国立病院機構松江医療センター呼吸器外科